

読み聞かせは「愛の体験」。言葉のよろこびを伝えるもの



協議会が市内小・中学校で行っている「読み聞かせ」

読書を推進する  
取り組み

子どもたちに本の素晴らしさを伝える  
TOPIC  
小林市小・中学校  
「読みきかせ」連絡協議会

「読みの体験」といわれます。それは、母親などの読み手から、本の内容だけでなく、その愛も伝えられるから。小林市小・中学校「読み聞かせ」連絡協議会の坂下実千代会長は、これまでの活動でこのように感じました。また、学校での読み聞かせは「同じ場所と時間を過ごすことのできる」といいます。さらに「言葉のよこるびを伝えることもできます。思いを伝える手段である言葉はとても大切なもの。それを増やすこと、豊かな感情を築けると思いますし、私たちの活動は、その種まきだと思っています」と読み聞かせの魅力を話し、今後の活動に意欲を見せていました。

毎年、春に開催している「おはなし会」の様子



読み聞かせ以外に、パネルシアターなども行っている



小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会の皆さん



おすすめの本を  
紹介します



小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会  
さかしたみちよ  
坂下実千代 会長

私の一冊は皇后美智子さまが書かれた「橋をかける」です。とても内容が深く、本には、こんなにも人に思いを巡らせる力があることを知り、感動しました。私が何度も読んだ本です。分厚いものではないので、読みやすいと思います。

私の1冊



「橋をかける」  
著者：美智子

昨年受講し活躍  
子ども司書から



第1回子ども司書  
養成講座卒業生  
黒木優加さん

昨年、講座を受講し、今では学校の図書委員として頑張っています。講座で学んだ本の修理を実際にやると、友達や先生から喜ばれました。  
私のおすすめは「ハリーポッター」シリーズです。私が本を好きになるきっかけにもなった作品です。

私の1冊



「ハリーポッター」シリーズ  
著者：J・K・ローリング

本の楽しさを広める伝道師。それが子ども司書

読書を推進する  
取り組み

TOPIC  
県内で唯一の取り組み  
友だちや地域に本の楽しさを伝える  
子ども司書養成講座

市内の小学生を対象に、本の楽しさや司書の仕事を学ぶ「子ども司書養成講座」。県内でも子ども司書養成に取り組むのは小林市だけです。この講座では司書の仕事の体験や、本の修理、読み聞かせなどを学びます。今年度は、12人がその門戸を叩きました。講座5回目の8月17日は、図書館のカウンターで、本の貸し出しや返却、本を探し利用者の対応などを実践。馬場広羽貴君（細野小5年）は「本の場所を尋ねられ、探すのに苦労し、難しさを感じた」と感想を話しました。市立図書館の山下町子館長は「子ども司書が本や図書館を友人などに抵抗なく紹介し、本に親しみを持つ人が増えれば」と、彼らの活躍に期待を寄せています。

司書講座では壊れた本に命を吹き込む修理についても学ぶ



第2回「子ども司書養成講座」受講生の皆さん



緊張の面もちでカウンターに立つ児童に優しく教える図書館職員

